

障害を受けた神経機能の回復を目指して

神経内科ってなに？ 今でもこんな疑問を持っているらっしゃる医療関係者の方はいませんか？

日本の医療現場では古くから、神経は精神、こころと結びついて考えられてきました。でも私たち神経内科が担当するのはちょっと違います。私たち神経内科医は人間の体の中で脳を中心として、そこにつながっている脊髄、末梢神経、筋肉などをまとめて担当していく守備範囲の非常に広い内科医です。時には脳神経外科、整形外科などの外科医の手を借りながら、また時には他の専門分野の内科医の力を借りながら、患者さんの機能回復のため適切な治療方針を考えていきます。



伊藤研修医に画像所見を熱心に説明する
水戸医師（神経内科指導医）

具体的な診療体制は？

診療は、神経内科専門医が担当していますが、脳卒中専門医、リハビリテーション専門医、頭痛専門医などの資格も有しており、様々な患者さんの病状に合わせて、より専門的に対応できるように日々研鑽しています。看護師も多発性硬化症の自己注射の指導、神経難病の患者さんの在宅療養の指導などに積極的に取り組んでいます。さらに、私たちは地域完結型医療を目指すという当院の方針のもと、地域連携にも積極的に参加し、脳卒中連携のみならず、難病相談ネットワークなど密な連携体制を構築しています。この中で、数は多くはないのですが、在宅療養中の患者さんの往診も行っています。長い方は二十年近くも往診を継続しています。



神経内科
部長
田島 康敬

強風の中往診へ…

入院の状況はどうなっていますか？

当院の神経内科病棟はいつも満床の状態、一年間の入院患者さんは500名を越えています。脳血管障害、パーキンソン病などの代表的な疾患はもちろんのこと、当院の特徴として、その3割程度が、非常に頻度の少ない稀な病気や、ほかの医療機関では対応が困難な合併症の多い患者さんが含まれています。

このように私たち神経内科では治療の難しい神経難病はもちろんですが、脳梗塞、頭痛、あるいは手足のしびれ、めまいなどといった身近なありふれた症状にもきちんと診断、治療を行うよう努めています。

ぐるぐる回るかざぐるまのように、皆さんとの医療連携がうまく回り続けられるよう努力して参りますので、どうかよろしくお願いたします。

今年の出来事

なお、本年6月から神経内科外来の診察室が変わりました。今までよりも、患者さんのプライバシーを保ちながら落ち着いてお話を伺えるように、診察室を完全個室としました。

まずは、ご相談ください。



合同カンファレンス

医師・看護師・医療ソーシャルワーカー
理学療法士・言語聴覚士が参加